



令和7年度

第1回 進路説明会

令和7年6月13日（金）

3年 組 番

氏 名

温知学舎 世田谷区立上祖師谷中学校

～ 目 次 ～

I、進路決定に向けて

1、 進路指導に関する学校方針	・・・ 1
2、 進路選択にあたって	・・・ 1
3、 進路選択への取り組み	・・・ 2

II、中学校卒業後の進路

1、 高等学校	・・・ 3
2、 高等専門学校	・・・ 5
3、 高等専修学校（専修学校高等課程）	・・・ 5
4、 その他	・・・ 5
5、 就 職	・・・ 5

III 高等学校等の入学者選抜について

1、 都立高等学校	・・・ 6
2、 私立高等学校	・・・ 8
3、 各ご家庭でご用意・作成いただく書類について	・・・ 9
4、 昨年度の入試状況	・・・ 9

資 料

・ 上祖師谷中学校の推薦についての考え方	・・・ 10
・ 都立高校の選考方法（調査書点・総合得点の計算法）	・・・ 11
・ 令和6年度進学先一覧	・・・ 12
・ 令和7年度進路選択に向けて（年間予定）	・・・ 13

I、進路決定に向けて

1、進路指導に関する学校方針

(1) 学年・学校の全教員による進路選択の支援

本人や保護者の方の相談に直接あたるのは担任ですが、生徒一人一人について学年及び学校全員で検討し、学年・学校としての考えをまとめ、相談を進めていきます。

(2) 進路情報の提供と共有

入試制度や募集状況などは、毎年少しずつ変更されています。進路説明会、連絡メール「すぐーる」等で、各ご家庭に入試に関する情報をお知らせする予定です。配布物には必ず目を通してください。三者面談等では生徒の普段の学校生活への取り組みや、復習確認テストや学習習得確認調査の結果をお伝えします。面談内容を参考にして生徒本人と保護者の方が十分に話し合ってください。

また、進路希望調査や調査書作成願いなどの書類のやり取りを通して、各ご家庭と学校が情報を共有しながら、進路選択に向けて取り組んでまいります。

2、進路選択にあたって

(1) 自分を知る

- ・何のために進学するのか。自分は高校で何をしたいのか。
- ・自分の興味・適性・能力は何か。
- ・将来に向けて、どのような準備（資格など）が必要なのか。
- ・自分の学力を客観的に調べる。（確認テスト・会場テスト等の利用）

(2) 上級学校を知る

上級学校は教育方針や授業内容、施設、校風・校則、卒業後の進路など各校で異なります。進学を考える学校について下記の項目を調べる必要があります。

- ・校風や特色：教育目標、教育課程、校則、行事、部活動、学校設備など。
- ・卒業後の進路：進学を希望する学校の卒業後の進路状況や取得できる資格など。
- ・費用：受験料、入学金、授業料、教材費、制服など高校生活にかかる費用。
*奨学金制度や就学支援制度など国や東京都の助成制度があります。制度の利用には条件があります。
- ・通学：通学時間や通学経路、通学方法など。
- ・学力：各上級学校の求めている学力と自己の学力。

また、学校の雰囲気や周囲や通学経路の環境などは、直接訪問し、直接自分の目で見て、情報を集めることが大切です。可能な範囲で保護者の方と一緒に学校説明会や学校見学会、体験入学に参加したり、文化祭や体育祭等を見学したりしてください。

(3) 家族で考える

様々な視点から進路先を考えるために、保護者の方の意見も大切になります。生徒本人の希望と保護者の思いをしっかりと話し合ってください。また、授業料や教材費など学費のかかることですので、その点についても保護者と一緒にしっかりと話し合い進路について考えることが必要です。

(4) 自分で決める

調べた情報を基に保護者と話し合い、様々な要素を検討していきますが、最後は自分で自らの進路先を決定することが大切です。

3、進路選択への取り組み

(1) 人任せでない、自分のこととして考える。

進路選択を誰かに任せるのではなく、自分の将来のことと捉えて取り組むことが必要です。自分自身を見つめ直し、努力し続け、何をすべきか考え実行していきましょう。また、保護者の方は、自分の人生経験をもとに、社会人の先輩として、お子様の望ましい進路選択をサポートできるよう、日頃から相談に乗っていただきますようお願いいたします。

(2) 生活の基本を大切にします。

「時間を守る」「提出物を出す」「ルールを守る」「礼儀・マナー」「挨拶・言葉づかい」「身だしなみ」等の『TPO』や『報告・連絡・相談』を大切にします。さらに、日常生活をしっかりと送ることが大切です。また、生活のリズムを崩さず、体調を管理することも大切です。進路希望先の学校等に提出する書類には、各生徒の教科の評価・評定の他に欠席、遅刻、学校生活などについて記入します。特に、私立高校への推薦受験を希望する場合、私立高校側から中学校の生活について詳しく問われることがあります。普段の学校生活をしっかりとしていくことを、常に心がけてください。ご家庭でも生活リズムを崩さないように十分な配慮をよろしくお願いします。

(3) 学力をつける。

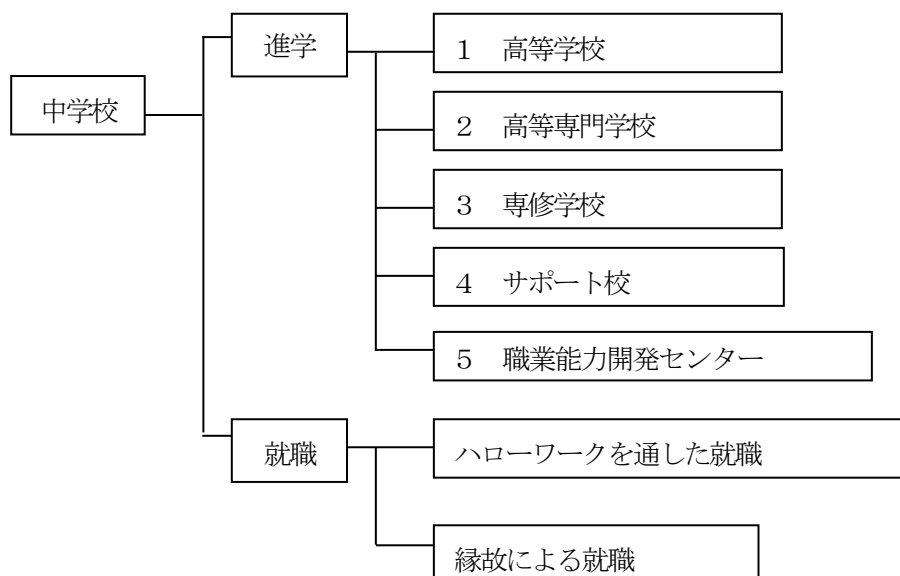
進路に関わる試験範囲は中学校3年分となります。その場限りの勉強ではなく、しっかりと学力を身につけることが必要です。そのためには、「中学3年間の学習内容を整理してまとめる」「1、2年の学習内容を復習し、正しく理解しているかをチェックする」「毎日の授業を大切にし、提出物もきちんと出す」等が大切です。学問に王道なし。根気よく積み重ねていく他に学力の向上はありません。

(4) 進路に関する情報を正しく知ること。

他者の意見を参考にしたとしても、自分でその内容を確認することが大切です。マスコミやネットのうわさ等の様々な情報に惑わされず、正しい情報をきちんと得ることも大切です。入試に関する手続きについても以前と変わっているものが多くあります。以前はこうだったと思い込まずに、最新の情報を確認することが必要です。

II、中学校卒業後の進路

中学卒業後の進路は高等学校進学だけではありません。幅広い視野で、自分に適した進路を選ぶことが大切です。



1、高等学校

① 高等学校の分類

【設置者の違いによる分け方】

国立	国立大学によって設立されている大学附属高校。国立大学の研究・実験に協力するための「教育実験校」で、難易度が極めて高い。
都立	東京都が設置し、経費を負担している学校。 都内在住、保護者と同居が条件。都内のどの都立高校でも受験が可能
私立	それぞれの理念を持つ学校法人によって設立された高校。独自の方針に基づいた教育を行う。

【授業を受ける時間帯による分け方】

全日制課程	毎朝登校して、日中授業を受ける。修業期間は3年間。
定時制課程	夜間定時制だけでなく、昼間定時制や三部制定時制など定められた時間帯に授業を受ける・ 修業期間は3～4年
通信制課程	自宅で学習し、レポートを提出して添削指導を受ける。定められた日（月2回程度）に登校し、面接指導を受ける。修業年限は3年以上。

【学習する集団による分け方】

学年制	第1学年、第2学年…、と進級する。学校で決められた時間割に沿って授業を受ける。
単位制	学年がない。必修科目以外は、自分の進路に合わせて選択科目の中から選ぶ。卒業までに必要な単位を取得する。

【教育内容による分け方】

普通科	幅広い教養を身に付ける（中学校での勉強の内容をさらに深く学習する）ことを目的とする学校。英語・理数などのコース制を設置している学校もあり、特定の科目を多くの時間をかけて学ぶことができる。
専門学科	商業科、工業科、農業科等、自分の興味や関心のある分野を重点に学習できます。専門科目を全体の3分の1程度学習する。実習が多くあり、資格や検定を取得することが可能である。
総合学科	国語や理科等の普通科目から、情報や美術、国際関係や家政系等の専門科目まで、幅広い選択教科から、自分の特技や進路希望にあった科目を選択することができる。

② 高等学校の特色

ア) 都立高等学校

- ・東京都の設置する高等学校で、東京都の教育の方針に従って運営される。
- ・都内のどこの都立高校も受検することが可能。
- ・入試問題は共通。(一部の高校では自校作成問題を実施。)
- ・普通科、専門学科、総合学科等があり、各校が独自の特色を出した教育を行う。

【多様なタイプの都立高校】

- ・チャレンジスクール：中学校のときに欠席日数が多かったり、高校中退を経験したり、これまでの教育では自分の能力を十分に発揮できなかった生徒が、自分の夢や目標に向かってもう一度チャレンジできる学校。学力検査や調査書によらず、生徒の学習意欲を重視した入学者選抜を行っている。
- ・エンカレッジスクール：小・中学校で十分に能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、二人担任制や30分授業、少人数制により、生徒を励まし応援しながら、勉強や学校行事、部活動などを通して学校生活を充実させる高校。学力検査を行わず、面接や作文等で入学者選抜を行う。
- ・昼夜間定時制：自分の生活サイクルや学習ペースに合わせて、午前・午後・夜間の3つの部から選んで入学する高校である。

【都立高校 特色のある教育活動】

- ア) 進学指導重点校：難関国立大学や国公立大学医学部医学科への進学実績の向上を目指している学校。
- イ) 進学指導特別推進校：国公立大学や難関私立大学等への進学を実現するために必要な学習に取り組んでいる学校。
- ウ) 進学指導推進校：生徒の進学希望を実現するため、優れた教育活動を実践するとともに、生徒の着実な学力の伸長を図り、進学実績の向上に取り組んでいる学校。

その他に、進学指導研究校、東京サイエンスハイスクール、SIP 拠点校、理数研究校、チーム・メディカル、Global Education Network 20 (GE-NET20)、英語教育研究推進校、など特色のある教育活動を行う都立高校があります。

イ) 私立高等学校

- ・それぞれの学校法人の設立した学校で、学校独自の特色を生かした教育を実施。
独自の建学の精神と校風、宗教教育、男子校、女子校、共学校、大学附属など
- ・都内だけでなく、他県でも自由に受験が可能。
- ・学費は、各校により異なる。
*東京都の高校無償化制度は授業料のみが免除されるため、それ以外の設備費や入学金等は自己負担となる。

ウ) 国立高等学校

- ・国立大学の附属としての位置づけで、様々な研究対象とされる。
- ・入学試験の問題は独自に作成され、難易度はかなり高い。
- ・併設大学への進学上の特典はない。
- ・学区制はないが、通学時間等の制限がある学校もある。

2、高等専門学校

- ・中学校卒業生を対象とした5年間の一貫教育を行う高等教育機関。
- ・実践的な技術の習得を重視し、主に工学系の技術者を育成する学校。
- ・卒業後に大学の3年次に編入することも可能。
*都立の高等専門学校は、都立高校よりも先に検査と発表があります。出願は両方にできますが、
高等専門学校に合格したら、都立高校は受検できません。
*国公立合わせて58校あります。受験希望については、早めにご相談ください。

3、高等専修学校（専修学校高等課程）

- ・仕事をするために必要な専門の知識や技能等を身に付けることを目的とした学校(教育施設)。
- ・通信制高等学校と連携して高等学校の卒業資格の取得も可能。

4、その他

- ・通信制高校補習校（サポート校）

いろいろなタイプの生徒の生活リズムに合わせられるよう、登校日が週5日、週3日などのコースに分かれていたり、中学校の学習内容の復習に力を入れたりと学校によって特色があります。サポート校自体は高校ではありませんが、通信制高校と授業提携によりサポート学習し、卒業時には高等学校の卒業証書が取得できます。

- ・都立職業能力開発センター

職業能力開発センターは、職業に必要な知識・技術・技能を身に付け、少しでも有利な条件で企業等に就職することを目的にしています。入校申し込みなどは直接センターへ問い合わせることもできます。期間としては、6ヶ月～1年となっています。

5、就 職

中学校卒業生の98%が上級学校へ進学するのが近年の状況ですが、中学校卒業後すぐに就職し、実社会の中へ飛び込むというのも進路の一つです。

（1）現在の状況

中学校卒業生の就職後3年以内に5割が離職する状況であり、社会の厳しさや働くことの大変さをしっかりと理解し覚悟をもって就職してほしいと思います。

（2）公共職業安定所（ハローワーク）を通して

就職を希望する際には必ず担任と相談して下さい。学校は公共職業安定所（ハローワーク）と連絡を取り合い、就職の相談を進めていきます。公共職業安定所を通すことによって、給料や雇用条件などをめぐるトラブルを防ぎ、安心して就職することができます。

（3）働きながら学ぶ道

働きながら学ぶ方法として、定時制高校・通信制高校へ入学するという方法があります。採用の条件としてこのような学校への進学をサポートしてくれる場合もありますし、企業内高校（例：日野工業高等学園）というのもあります。

Ⅲ 高等学校等の入学者選抜について

入学試験には、「推薦入試（書類審査（調査書）、面接、作文、実技検査などによる選抜）」と、
「一般入試（書類審査、学力検査や面接などによる選抜）」があります。

1、都立高等学校

（1）応募資格

- ①全日制 都内に住所があり、保護者と同居し入学後も都内から通学することが確実であること。
- ②定時制 都内に住所または勤務先があれば特に制限はありません。

（2）入試について

- ・「推薦に基づく選抜」「学力検査に基づく選抜（第一次募集・分割前期募集）」「学力検査に基づく選抜（分割後期募集・第二次募集）」があります。
- ・出願はインターネット出願です。（出願方法の詳細は第2回進路説明会で説明します。）

【 令和8年度入学者選抜の日程 】

推薦に基づく選抜	出願受付期間	【志願者情報入力期間】 令和7年12月19日(金)～ 令和8年1月16日(金) 午後5時 【書類提出期間】 令和8年1月9日(金)～16日(金)
	実施日	令和8年1月26日(月)・27日(火)
	合格発表日	令和8年2月2日(月)
学力検査に基づく選抜 第一次募集・分割前期募集	出願受付期間	【志願者情報入力期間】 令和7年12月19日(金)～ 令和8年2月5日(木) 午後5時 【書類提出期間】 令和8年1月30日(金)～2月5日(木)
	実施日	令和8年2月21日(土)
	合格発表日	令和8年3月2日(月)
学力検査に基づく選抜 分割後期募集・全日制第二次募集	出願受付期間	令和8年3月5日(木) ※入学願書は窓口への持参により受付
	実施日	令和8年3月10日(火)
	合格発表日	令和8年3月13日(金)

①推薦に基づく選抜

・応募資格

- ・令和8年3月に都内中学校を卒業する見込みの生徒
- ・志願する都立高校を第1志望とする者
- ・在学している中学校校長の推薦を受けた者

- ・推薦には、「一般推薦」と「文化・スポーツ等特別推薦」「理数等特別推薦」の3種類があります。
- ・推薦枠は、普通科は全体の20%以内、それ以外の学科は30%以内、工業系学科40%(令和7年度入試)に設定されています。

- ・調査書、面接、集団討論、小論文（作文）、実技検査などの結果に基づき、選考を行います。
 *令和3～5年度入試ではコロナ感染防止対策のため、集団討論は実施されませんでした。
- ・倍率は高く、「学力検査に基づく選抜」よりも合格は難しいです。

令和7年度 全日制（普通科、専門学科、総合科）計 2.28 倍

- ・出願にあたっては「自己PRカード」（志望理由や中学校生活の中で得たこと、高等学校卒業後の進路について自身の考えを記述したもの）を提出します。事前に各都立高校が公表している「本校が期待する生徒の姿」を理解して、各都立高校の求める生徒像を理解しておくことが大切です。

***都立高校推薦入試に合格した場合は、必ず入学しなければなりません。**

②学力検査に基づく選抜

- ・「調査書点」「学力検査点」「E S A T－J（英語スピーキングテスト）結果」の合計（1020 点満点）で選考します。
 実技検査や面接、小論文または作文等を実施して加算し選考する高校もあります。
- *調査書点は、1 学期と 2 学期の成績を総合した 2 学期の評定を用います。**（私立高校の場合も同じですが、1 学期の評定を用いる学校もあるので、各校の入試要項をよくご確認ください。）

- ・学力検査は5教科（国語・数学・英語・社会・理科）です。
 *芸術及び体育に関する学科（実技検査があるため）や分割後期募集・第二次募集は3教科（国・数・英）で学力検査を実施します。

- ・解答用紙はマークシート方式ですが、記述式も含んで出題されます。

- ・学力検査と調査書の比率は、
 全日制課程の一次募集・分割前期募集では「7 : 3」
 分割後期募集・二次募集では「6 : 4」です。（令和7年度入試）
 *学力検査点や調査書点の算出方法は巻末資料参照にしてください。

- ・学校が指定する教科の配点に比重をかけた「傾斜配点」を実施する学校もあります。
 国際高校、松が谷高校外国語コースなど
 （例：国際高校の学力検査では英語は自校作成問題で行い、英語の得点のみ2倍にして計算します。）

- ・分割募集 前期（一次募集と同じ時期）と後期（二次募集と同じ時期）の2回に分けて募集する高校もあります。
 府中東高校、田園調布高校、山崎高校など

- ・二次募集は、一次募集で定員に満たなかった場合のみ行われますので、二次募集が必ずあるとは限りません。

2、私立高等学校

(1) 応募資格

都内だけでなく、全国の私立高校を受験することができます。ただし、通学範囲が指定されている学校もありますので、各校の入試要項をよくご確認ください。

(2) 入試について

①推薦入試

- ・内申点、生活態度、欠席日数など、各校独自の明確な基準が示されます。

この基準をクリアしないと推薦入試を受けることができません。

私立高校の推薦基準の例

- ・本校を第1志望とし、出身中学校長が責任を持って推薦する、以下の基準を満たす人物、学業ともに優秀な生徒。
- ・内申点：9科計27、
- ・欠席・遅刻・早退が各学年とも6日（6回）以内であること。

- ・私立高等学校の推薦入試では、事前に中学校と高校の間で行われる入試相談（12月中旬）にかけることが必要です。そのため12月の三者面談で推薦入試による受験校を決める必要があります。

- ・選抜は中学校長の推薦書、調査書、作文、面接、実技、適性検査等で行います。

- ・基準をクリアしていても、倍率や面接の結果によって不合格になることもあります。

②一般入試

- ・試験日は、2月10日～12日に多く実施され、試験日が異なれば、複数受験することも可能です。

- ・試験科目は3教科（国語・数学・英語）の学校がほとんどです。

2科目の学校や作文、実技試験などを行う学校もあります。

- ・学科試験だけでなく、面接試験を実施している学校もあります。

- ・学校や学科によって出願・試験・発表・手続きの日時や方法が異なります。

- ・入試に必要な書類は早めに各自で入手する必要があります。

【 私立一般入試における優遇制度 】

次のような優遇制度を設定している高校もあり、各高校で優遇制度利用の基準を設けています。

- ①第一志望：合格したら必ず入学することが条件で、内申点や試験の得点に加点されるなど優遇措置がとられる制度です。

- ②併願優遇：第1志望の高校に不合格の場合に入学することを前提とした優遇制度です。公立だけでなく私立併願可の学校もあります。入学手続きを第一志望の高校の合格発表まで延期することができます。

12月の入試相談に通して申し込む必要があります。

3、各ご家庭でご用意・作成いただく書類について

- ・都立高校受検に関する書類は中学校を通して、東京都教育委員会から配布されます。
- ・私立高校の受験に必要な書類等は各ご家庭でご入手ください。
- ・下記の「進路希望調査」や「調査書作成願い」は中学校から配布します。ご記入後、中学校にご提出いただきます。

進路希望調査	7月、9月、10月、11月に中学校にご提出いただき、面談時に使用します。
推薦制度利用希望調査	9～10月に、推薦制度（推薦、併願優遇、第一志望）利用の有無を確認するために中学校にご提出いただきます。推薦に関する校内基準を満たしているかを確認後、推薦希望の受理をお知らせします。
調査書作成願い	志望校の決定後、調査書（成績や出欠などの学校生活の状況を記載したもの）の作成のために中学校にご提出いただきます。 <u>作成願いの受領後に中学校が調査書を作成します。</u> 公立様式（都立用）の調査書は中学校で用意します、私立高校から指定された書式の調査書は各ご家庭で入手していただき、担任に提出していただきます。
推薦・第一志望・併願優遇願い	都立・私立共に推薦制度利用希望調査をご提出いただき、推薦希望が受理された後、12月の三者面談で具体的に志望校が決定後にご提出いただきます。「推薦・第一志望・併願優遇願い」を中学校が受理した後、高等学校との入試相談を通して、推薦等の利用可否が決定します。その後、中学校が推薦書を作成します。私立高校から指定された書式の推薦書を使用する場合は、担任に提出していただきます。
自己PRカード	都立高校を受検する場合に、志願者が高校に提出する書類。各都立高校が作成している「本校が期待する生徒の姿」を読んで、志願者本人が作成します。都立推薦入試を受検する場合は出願時に提出し、一般入試で受験する場合は合格決定後に進学する高校へ提出します。

4、昨年度の入試状況

(1) 都立高校

① 昨年度（令和7年度入試）の状況

令和7年度 都立全日制 推薦入試応募倍率 2.28倍、一次・分割前期入試全日制最終倍率 1.29倍と全体的には下がり傾向ですが、中堅から上位校は依然として高い倍率を維持しています。総合学科は復調傾向、専門学科は低倍率の状況です。

② 近年の変更点

- ・インターネット出願の全校実施
- ・E S A T－J（英語スピーキングテスト）の実施。総合得点に20点加算（1000点満点→1020満点）
- ・令和6年度入試から男女定員枠の廃止→男女合同選抜へ。

(2) 私立高校

近年の傾向として、

- ・私立高校の授業料支援の拡充に伴う、私立高校志望の増加
- ・大学入試が不透明な点も多いこともあり、私立大学附属高校の人気は高い
- ・コースの新設や共学化

などがあげられます。

上祖師谷中学校の推薦についての考え方

推薦入試は「上祖師谷中学校の推薦についての考え方」の基準を満たした受験生が、学校長の推薦を受けて受験する制度です。推薦受験を希望する学校を第一志望とし、合格した場合は必ず入学することが条件です。

1 推薦入試制度

ここで取り上げる推薦入試制度とは、公立・私立の推薦入試制度だけでなく、全ての上級学校の単願（第一志望受験）・併願（第二志望受験）等、「推薦」という言葉がなくても、「校長や学校による人物保証」を求められるような表現がある場合における受験全般をさします。

※ 外部のスポーツクラブチームのコーチ、文化活動の指導者等を通じた文化活動・スポーツ等における推薦受験をする場合も、多くの場合校長推薦が必要です。

2 推薦の対象となる人物

- ① その学校（受験校）を卒業するまでの間、しっかりとした目的意識をもって生活し、学校生活全般において向上心とやり遂げようとする強い意志をもって臨もうとする態度が伺える。
- ② 中学校生活において「推薦にふさわしい人物」である。
 - *授業への取り組みが真面目で、学習に前向きである。
 - *言葉遣い・服装・態度等TPOを考え、落ち着いた生活を送ることができている。
 - *日直・清掃・当番活動や、委員会、行事等への取り組みの中で、自己の責任を果たしている。
 - *教職員・保護者等からの注意を素直に受け止め、改善しようと努力する。
 - *上祖師谷中学校を卒業するまで、上記の様な学校生活が送れることが見込める。
- ③ 受験校が求める成績等の基準に達している。
- ④ 受験校が求める出欠席・遅刻・早退等の基準に達している。その他、受験校が求める基準、条件を満たしている。

3 推薦受理までの基本的な流れ

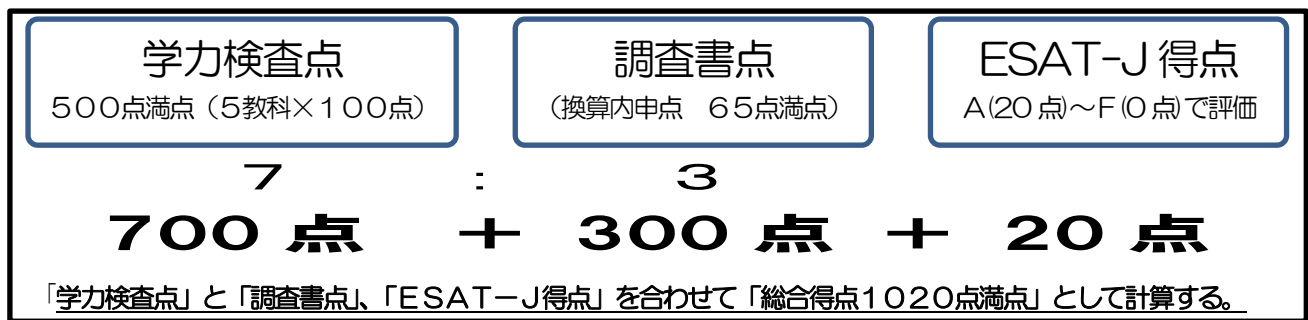
- | | |
|--------------------------------------|----------|
| ① 生徒及び保護者からの「推薦希望」が出される。 | 【9～10月】 |
| ② 教職員全員で、推薦希望の生徒が2の推薦基準を満たしているか検討する。 | 【10月】 |
| ③ 基準を満たしていると考えられる生徒について、その旨を校長に具申する。 | 【10月】 |
| ④ 校長の判断で、その生徒の人物を保証し、推薦されることが決定する。 | 【10月】 |
| ⑤ 推薦が受理された旨を、学年の教員から生徒及び保護者に伝える。 | 【10～11月】 |
| ⑥ 「推薦願」「併願優遇願」「第一志望優遇願」を中学校に提出する。 | 【12月初旬】 |

4 推薦が難しいと判断される例

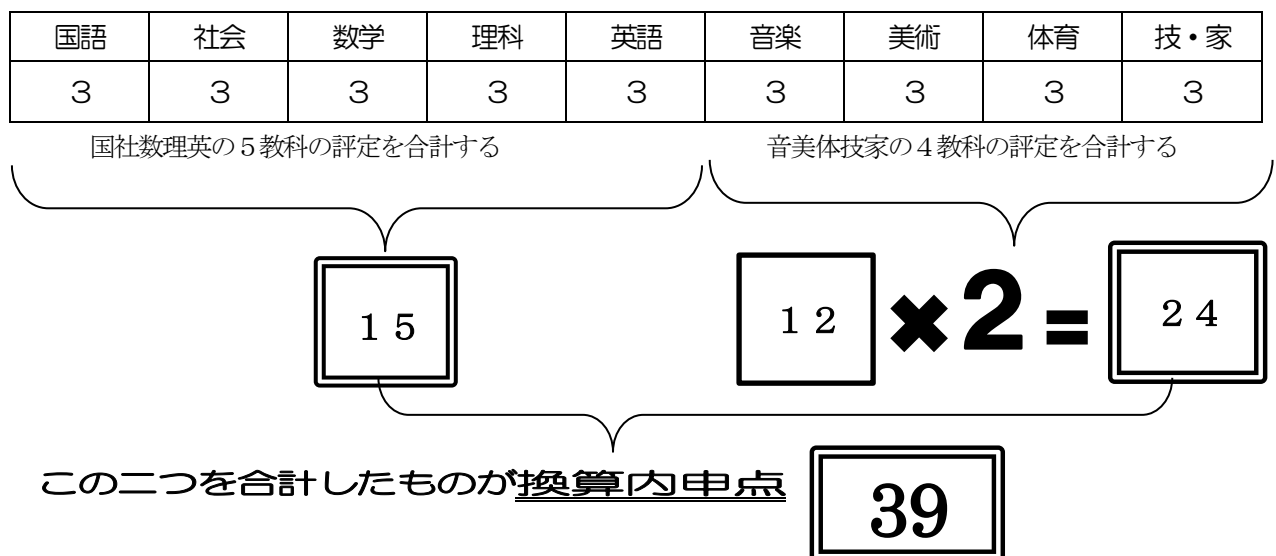
- ① 法に触れる行為をした場合、または補導の対象となる行為をした場合
- ② 怠学等生活の乱れによる遅刻や欠席が著しく多い場合（正当な理由がある場合は除く）
- ③ 上祖師谷中学校の決まりが守れず、それに対する教職員の指導を素直に受け止められなかったり、改善の見込みが見られなかったりする場合

都立高校の選考方法（調査書点・総合得点の計算法）

例：全日制課程一次・分割前期の基準（学力検査点と調査書点の比率が7：3）の場合

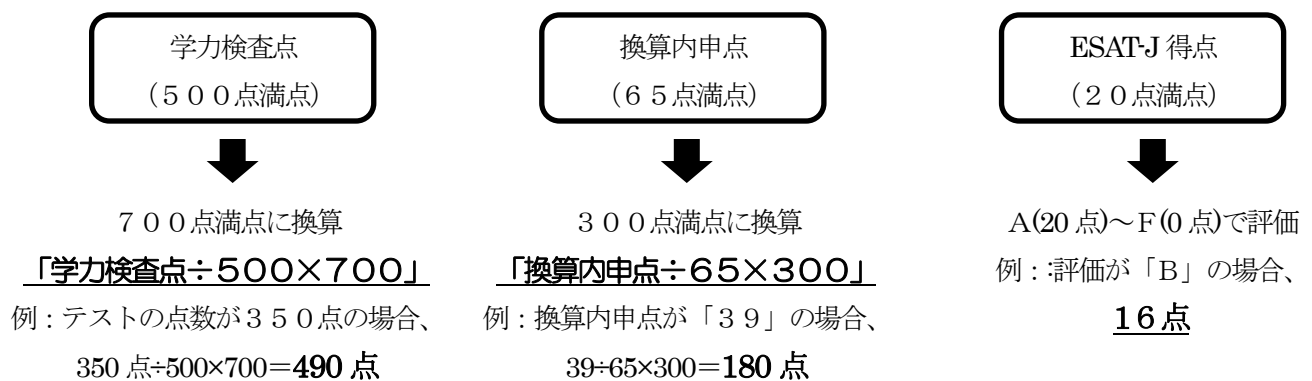


◎換算内申点の計算の仕方 成績がすべて「3」の場合



◎総合得点の計算の仕方

「学力検査点」＋「内申点」＋「ESAT-J結果」＝総合得点（1020点満点）として計算します。



総合得点：490＋180＋16＝686点

令和6年度進学先一覧(令和7年3月卒業生)		令和7年4月	
都立高等学校(50音順)	私立高等学校・高等専修学校(50音順)		
青山高等学校	EXPG高等学院	トキワ松学園高等学校	
井草高等学校	科学技術学園高等学校	二松学舎大学附属高等学校	
片倉高等学校	関東国際高等学校	日体大荏原高等学校	
工芸高等学校	錦城学園高等学校	日本学園高等学校	
小平南高等学校	クラーク記念国際高等学校	日本女子体育大学附属二階堂高等学校	
狛江高等学校	慶應義塾志木高等学校	日本大学櫻丘高等学校	
駒場高等学校	佼成学園女子高等学校	日本大学第三高等学校	
鷺宮高等学校	國學院高等学校	日本大学鶴ヶ丘高等学校	
桜町高等学校	国土館高等学校	日本大学明誠高等学校	
新宿山吹高等学校	駒場学園高等学校	VAW栄光ハイスクール	
神代高等学校	実践学園高等学校	八王子実践高等学校	
杉並高等学校	十文字高等学校	バンタンデザイン研究所 S高等学校	
世田谷泉高等学校	松陰大学附属松陰高等学校	堀越高等学校	
世田谷総合高等学校	聖徳学園高等学校	明星学園高等学校	
総合工科高等学校	城北学園城北高等学校	目黒日本大学高等学校	
千歳丘高等学校	杉並学院高等学校	目白研心高等学校	
調布北高等学校	成城学園高等学校	和光高等学校	
豊多摩高等学校	正則学園高等学校	早稲田大学高等学院	
西高等学校	青稜高等学校		
農芸高等学校	専修大学附属高等学校	特別支援学校(50音順)	
日野高等学校	渡辺高等学院 第一高等学院	永福学園	
広尾高等学校	大成高等学校	青鳥特別支援学校	
府中東高等学校	大智学園高等学校		
府中高等学校	大東学園高等学校		
松が谷高等学校	拓殖大学第一高等学校	都立高校	71
松原高等学校	桐光学園高等学校	私立高校	82
三田高等学校	東洋高等学校	特別支援学校	6
芦花高等学校	東洋大学京北高等学校	その他	1
若葉総合高等学校	トキワ松学園高等学校	合計	160

令和7年度 進路選択に向けて

【 進路選択に向けた1年間の予定 】

組 番 氏名

月	学校行事	進路関係	生徒・保護者の取り組み	自主学習
4	始業式 入学式	全国学力調査	<u>○進路に関する情報を収集する。</u> ・志望校の <u>学力レベル</u> を調べる、 ・志望校を考える上での <u>優先事項</u> を考える。(学校の特色、部活動、通学時間など) <u>○現段階の自分の学力を知る。</u> 目標の実現に向けて具体的に学習への取り組みを考える。 <u>○保護者と進路の</u> <u>おおよその方向性を</u>	1・2年の復習 <div> ●学習計画を立てる (長期・短期) ●授業の復習 ●提出物の期限内提出 ●単元テスト・期末考査の準備と取り組み </div>
5	単元テスト			
6	体育祭 期末考査	進路説明会(1) 復習確認テスト① <u>第1回 進路希望調査</u>		
7	夏休み	<u>三者面談</u> ⇒方向性の確認	<u>○実際に学校を見学する。</u> 上級学校の 学校説明会、 体験入学、 学校見学、 学校公開、 文化祭などに 参加・見学する。	3年1学期までの復習
8				苦手の克服
9	修学旅行 単元テスト	学習習得確認調査① 進路相談会 <u>第2回 進路希望調査</u>		総まとめ、応用問題
10	音楽祭	学習習得確認調査② 進路説明会(2) <u>三者面談</u> ⇒志望校を絞る	<u>○私立高校の募集要項を入手する。</u> <u>○受験する上級学校を絞り込む。</u> 成績(内申)が、 ・上がった場合、 ・現状維持、 ・下がった場合、 と状況によって志望校を考えておく。 * <u>第3回進路希望調査</u> で 担任に伝える。	
11	期末考査	復習確認テスト② 中学校英語 スピーキングテスト <u>第3回 進路希望調査</u>		
12	冬休み	<u>三者面談</u> ⇒志望校の決定		
1		都立・私立推薦入試	<u>○志望校を決定する</u> 推薦制度や併願優遇制度を利用して受験する場合は、受験する学校を決定する。 <u>○受験関係書類の用意・提出</u> ・推薦や併願優遇願いの提出 ・私立高校受験願書などの準備 ・調査書作成依頼の提出 <u>○受験の手続きを行う</u> 出願→受験→発表→手続き * 出願から入学手続きまで、学校によって 手続きやべ切が異なります。 * 必要書類などをしっかりと確認することが 必要です。 <u>○書類提出べ切を守ってください。</u>	過去の入試問題
2	学年末考査	私立入試・発表 都立一次入試		
3	卒業式	都立一次発表 都立二次入試・発表		決定した進路への準備

基礎学力の充実・家庭学習の習慣づけ期間

実力養成期間

総仕上げ期間